

II キャンパス・ライフ

1 学 業

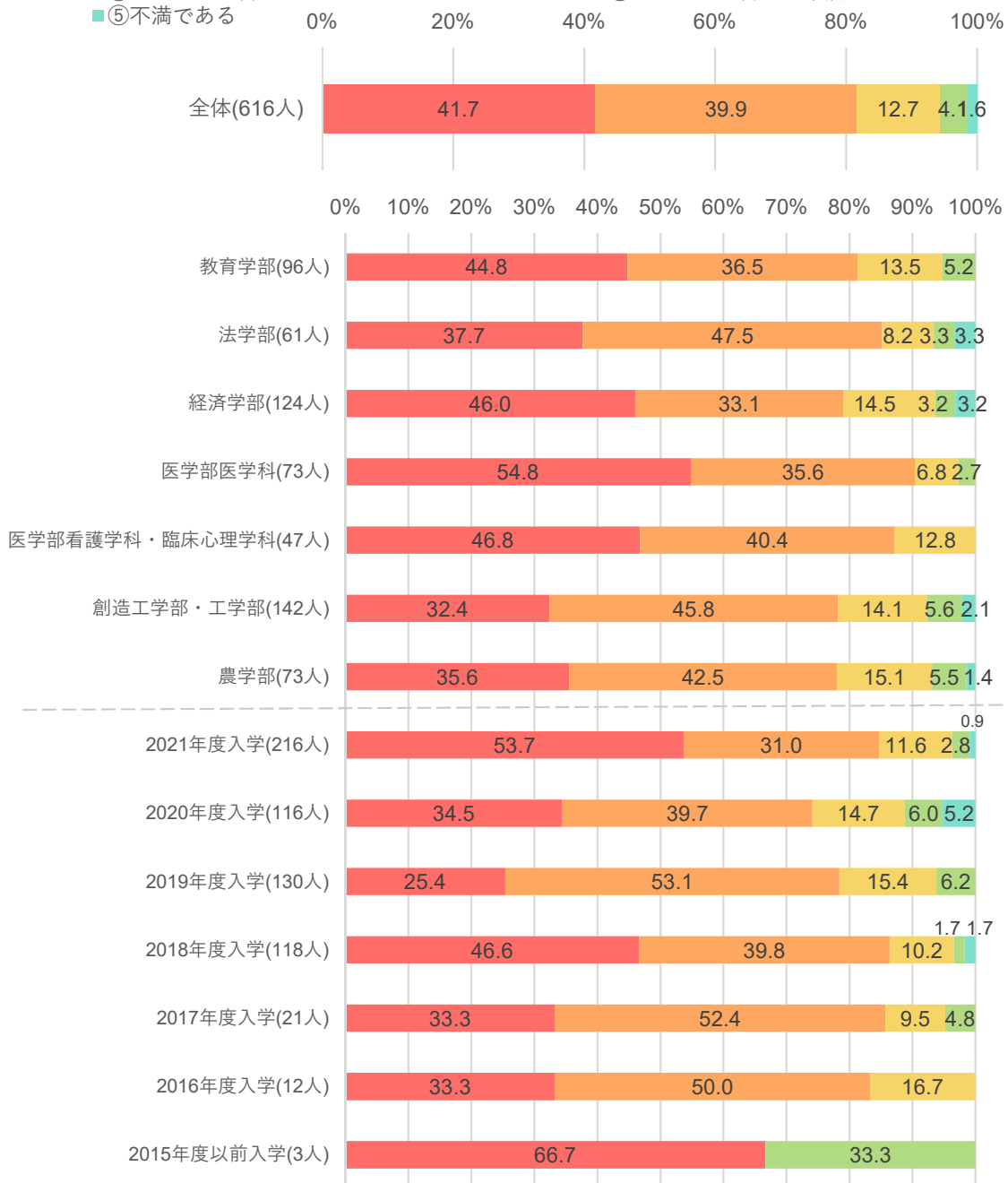
(1) 学部・学科の満足度

問20 あなたは入学した学部、学科などに満足していますか。

全体として、満足・どちらかという満足 という学生は8割を超えており、コロナ禍の大学生生活で対面の講義も難しいなか、前回の令和元年度調査より満足度は上がっており、多くの学生が満足感をもって学生生活を過ごしているようで、よい結果ではないかと思われます。

学部別でも、全ての学部において7割超が概ね満足という回答であり、特に医学部医学科では平均より高めの、9割の学生が満足しているといえます。

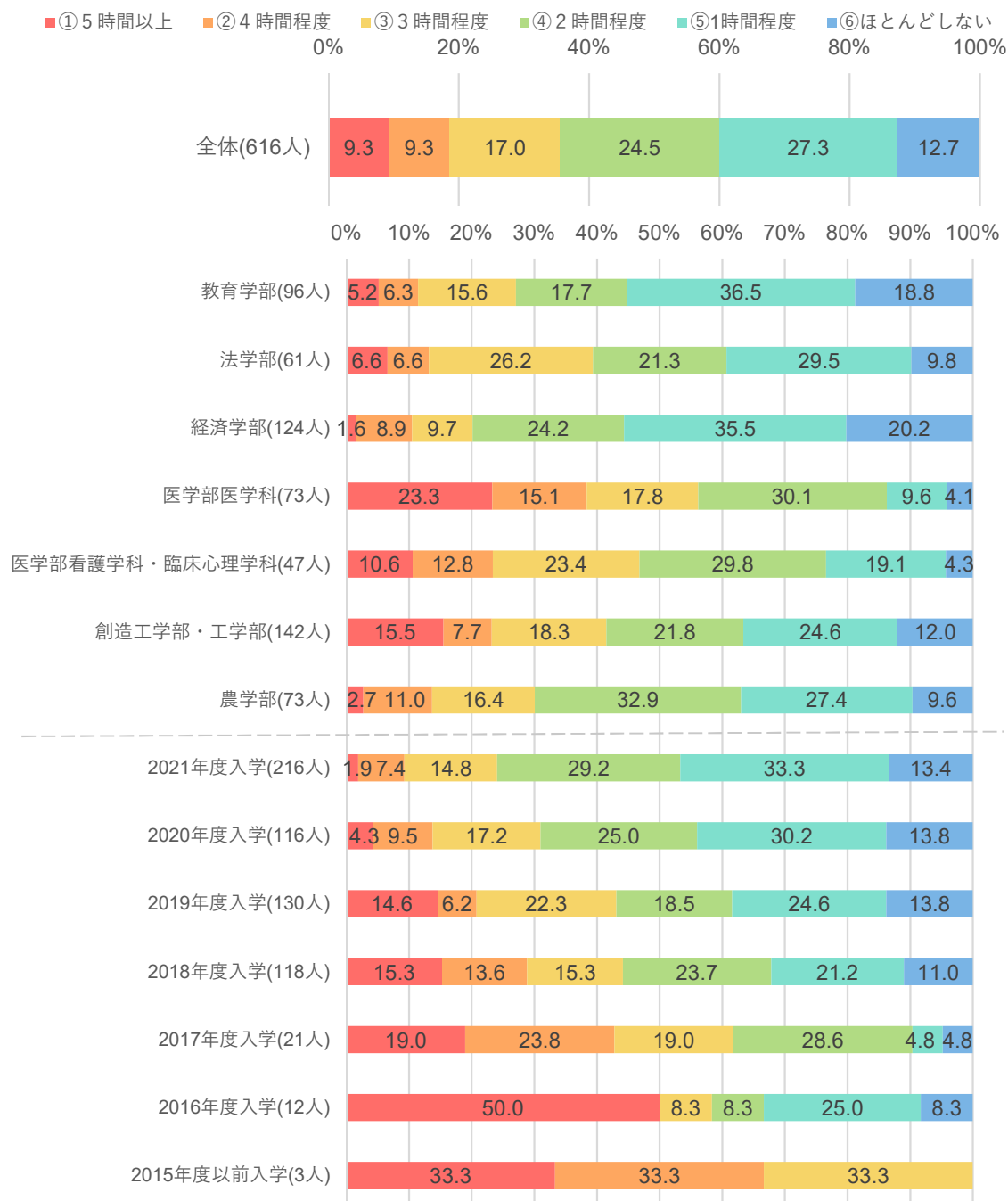
入学年度別では、もっともコロナの影響を受けた新学期を送った2020年度入学者の満足度がやや低い傾向がみられるのも致し方ないところであると思われます。



(2) 1日の勉強時間

問21 大学の授業以外に、あなたは1日平均何時間ぐらい勉強していますか。

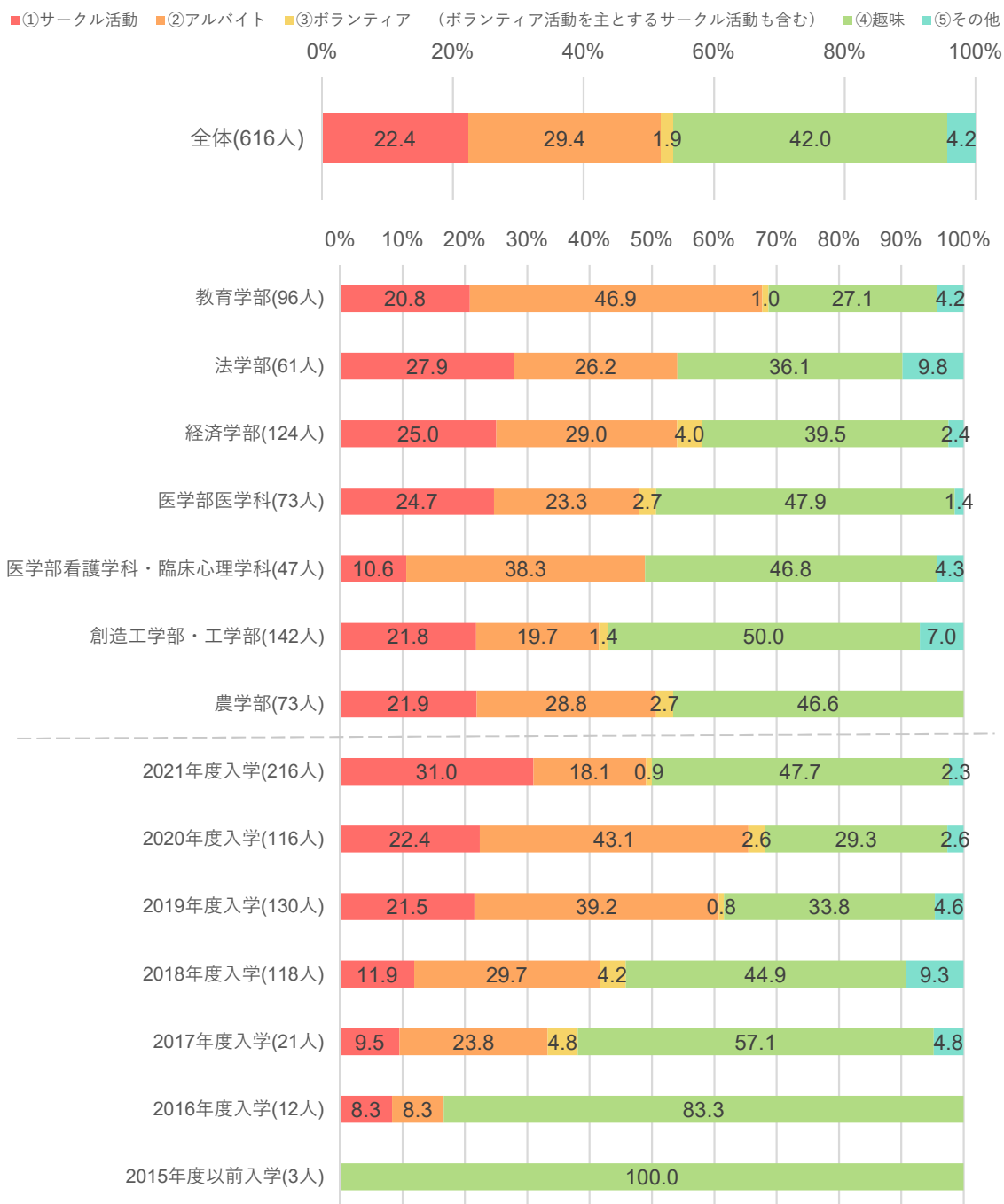
全体として2時間以上勉強している者が6割を占め、日本の大学生の平均から考えても多いと思われる、本学の過去のデータと比べても増えています。前回調査同様、自学自習を促す取り組み等により改善されているように見えます。学部別では医学部医学科で最も多く、5時間以上の者が2割を超え、8割近くの学生が2時間以上勉強しています。入学年度別では学年が上がるにつれて時間が多くなる傾向がみられます。留年者を含む2015年度以前では短い方でも2時間程度はしており、モチベーションを保っている印象を受けます。一方で、医学科高学年と思われる2017・2016年度入学者で「ほとんどしない」が5~8%いることは何らかの取り組みが必要のように思われます。



(3) 授業以外の取組

問22 大学の授業以外に特にあなたが時間を費やしているものについて、次のうちから一つ選んで教えてください。

コロナ禍の影響があるのか、全体では趣味が40%を超え、次いでアルバイト、サークル活動となり、前回までの結果と比べてサークル活動と答えた学生の割合が大きく減っています。学科別では、教育学部生のアルバイトの率が高くなっており、塾教師や家庭教師などのWebでできコロナの影響をうけにくいアルバイトをしている学生が多いためかもしれません。一方で、医学部では前回まで6割以上を占めていたサークル活動が大きく減少し、趣味が倍増しております。他学部ではここまでの変化はないため、コロナ禍によるサークル活動停止の影響が大きく出ていると思われます。入学年度別では、学年が上がるとサークル活動に費やす時間が減っています。



問23 問22の質問で「5.その他」を選択した方は、具体的に記述してください。

教育学部

- ・教採の勉強
- ・採用試験の勉強、卒業論文
- ・資格の勉強
- ・ピアノの練習

法学部

- ・公務員試験の勉強
- ・就職活動（公務員試験）
- ・公務員試験対策
- ・資格学習
- ・資格試験勉強
- ・レポートや公務員試験の勉強

経済学部

- ・睡眠
- ・プロジェクト
- ・学生プロジェクト

医学部医学科

- ・勉強

医学部看護学科・臨床心理学科

- ・大学の課題、試験勉強
- ・家事

創造工学部・工学部

- ・就活
- ・自動車学校
- ・研究
- ・なし
- ・研究活動
- ・何もしていない
- ・ダラダラ

農学部

回答なし

(4) アルバイトに費やす時間

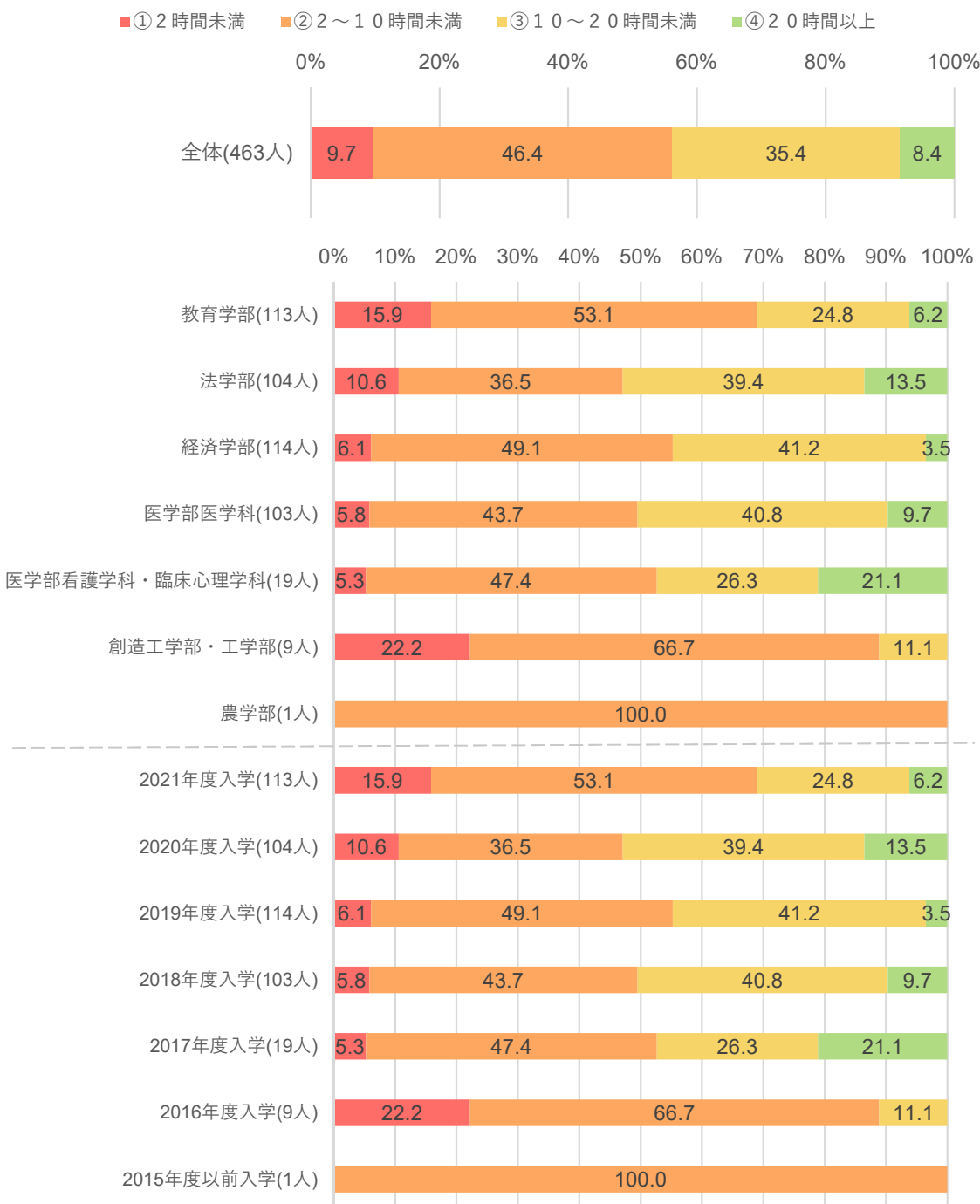
問24 アルバイトをしている方におたずねします。

アルバイトに費やす時間はどれくらいですか（通勤時間を含めた1週間当たりの平均）。

全体では、1週間に2～10時間といった学生が半分近くを占め、10～20時間も3割を超えています。2時間未満と答えた学生は約1割でした。

学部別、入学年度別でも大きく傾向はかわらない印象です。

コロナ禍ではあるものの、以前と変わらぬ生活形態が続いているようです。創造工学部と農学部において回収率が極めて低く、参考にはならないと思われま

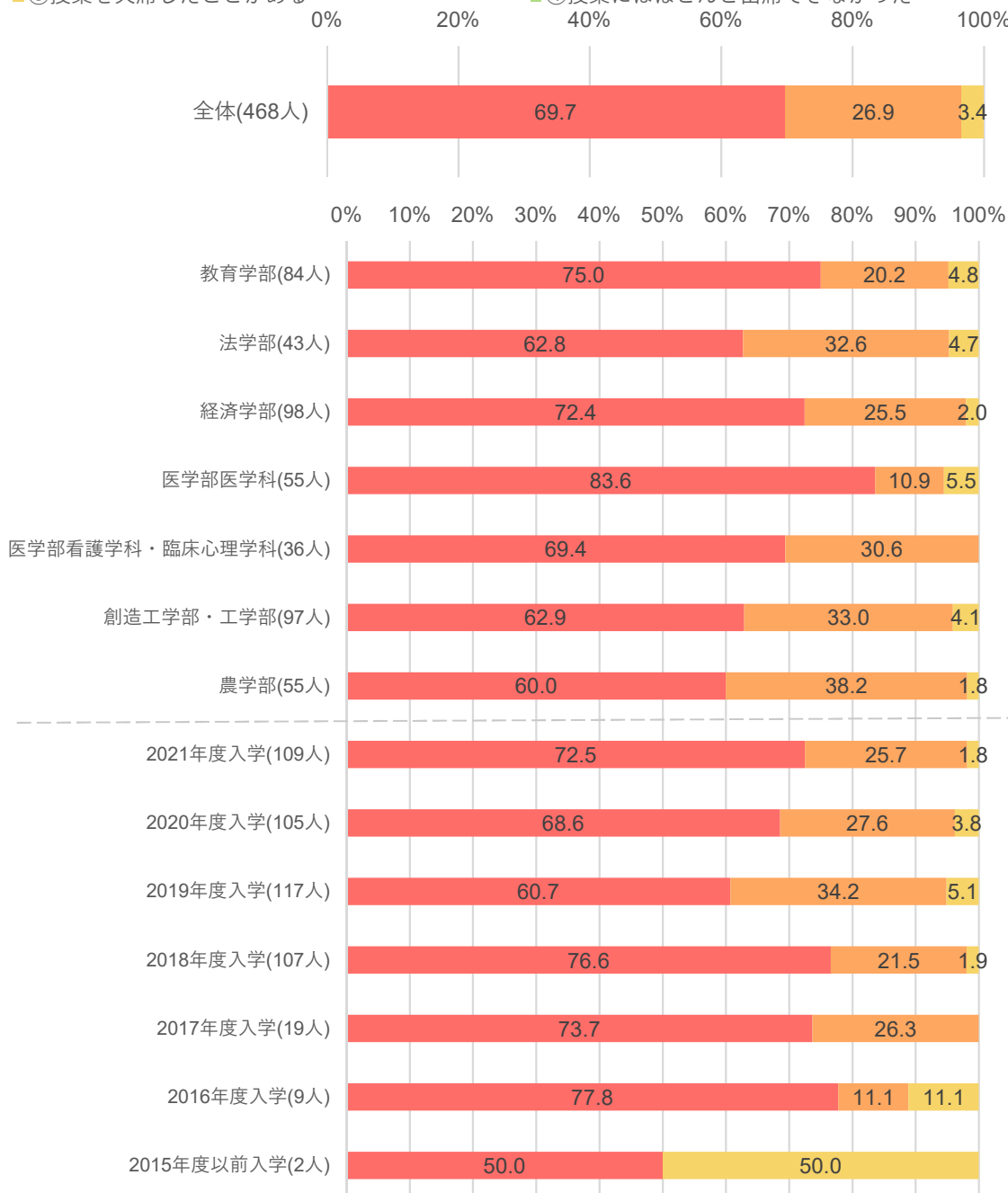


(5) アルバイトと学業の関係

問25 アルバイトと学業の関係はどうか。

両立できていると答えた学生が全体では7割近くを占めているが、勉強時間が少なくなったと答えた学生も3割近くおり、前回調査時より増加しています。学部別、入学年度別でもそれほど傾向は変わりません。「授業にはほとんど出席できなかった」がゼロになったことは好ましい変化だと思います。オンデマンド講義のため、時間に拘束されなくなったことが原因と考えられますが、生活リズムがどのようになっているかまで踏み込んで調査する必要があるかと思われます。生活のため、また社会を学ぶという利点はあるものの、本業の勉学がおろそかにならぬよう、また健康を損ねたりすることのないよう注意が必要です。

- ①両立し特に影響はなかった
- ②授業には出席できたが勉強時間が少なくなった
- ③授業を欠席したことがある
- ④授業にはほとんど出席できなかった

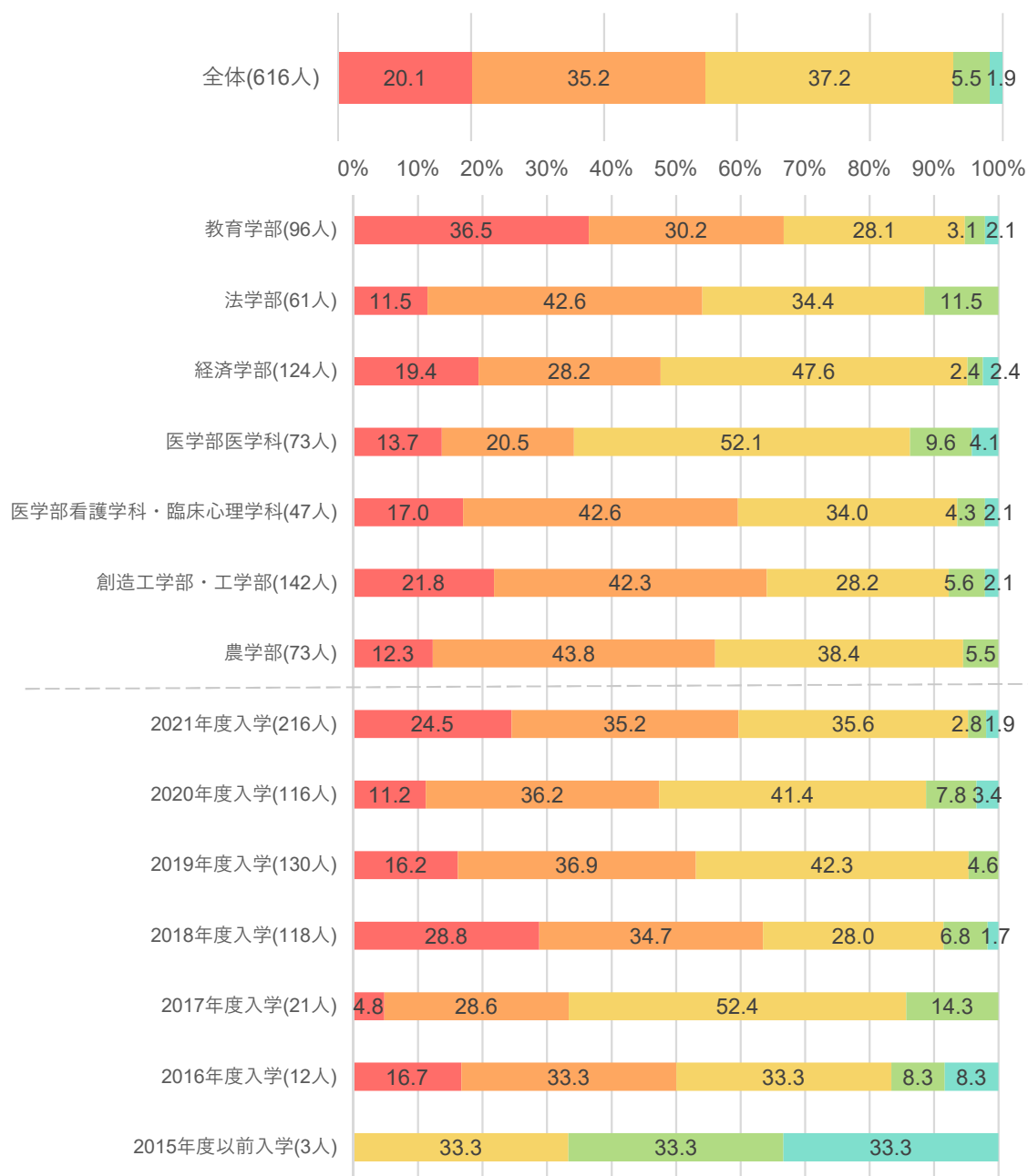
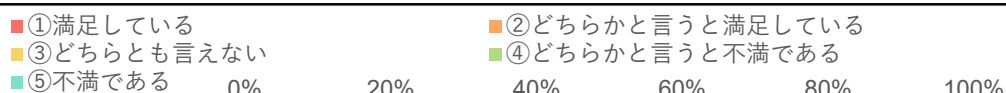


(6) 教員との交流

問26 あなたは本学の教員との交流に満足していますか。

教員との交流は、学部、学年、また学生個人の特質によって期待も満足度も異なります。また教員側の事情も考慮すべきところがあります。

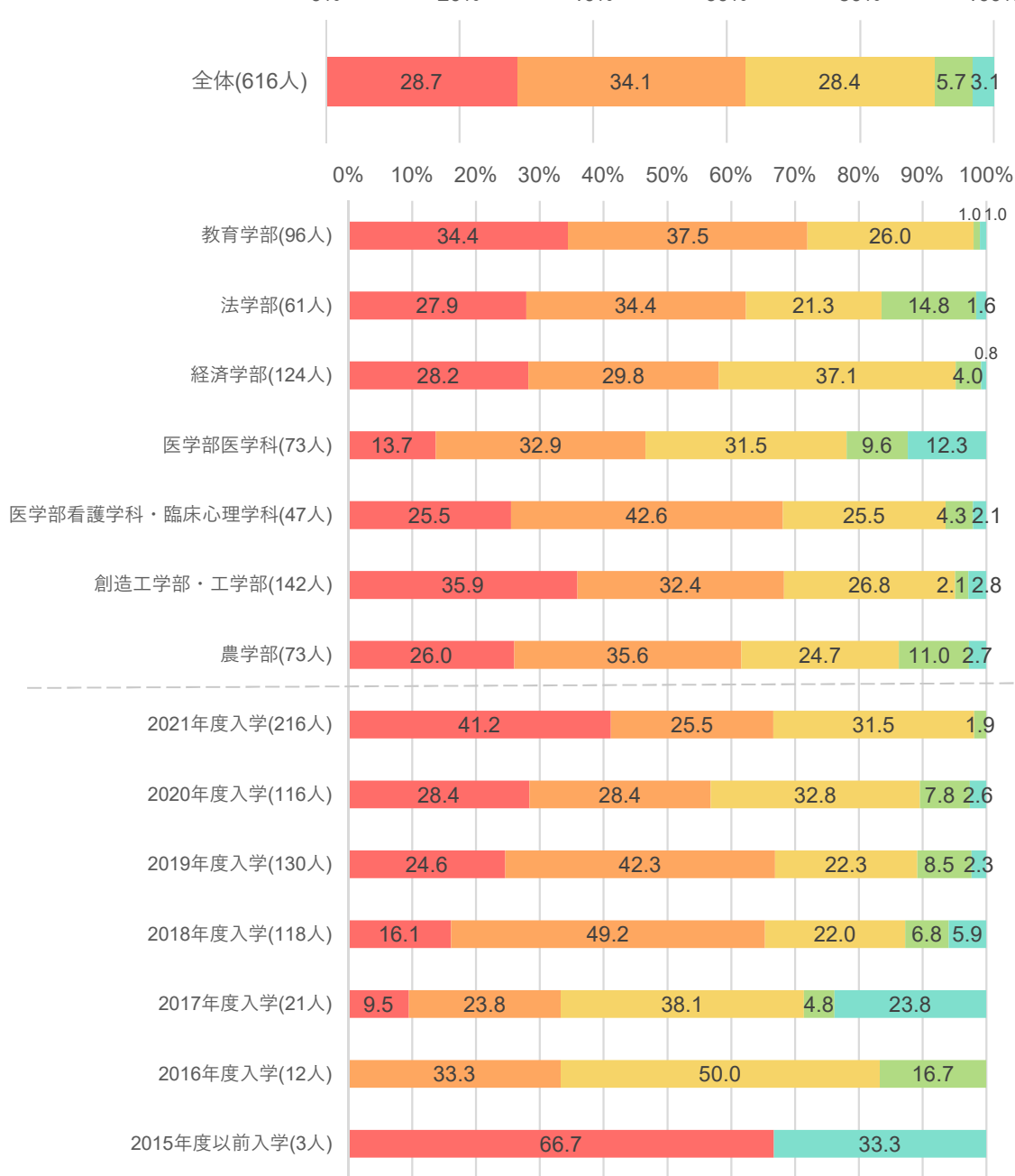
例年同様、医学部医学科において低い傾向が続き、最も満足度が少ないのも、学生の自律尊重、病院での臨床に時間を割かれているといった理由があるように思われます。一方で、医学部看護学科・臨床心理学科においては前回調査時からの大幅な改善が見られており、新たな取り組みをされたかの調査は有用かと思われます。



(7) 学生窓口（各学部の学務係等）の対応

問27 あなたは学生窓口（各学部の学務係等）の対応に満足していますか。

6割超の学生がほぼ満足していると答えています。
 医学部医学科学生において満足度の低さ・不満度の高さが、前回調査時よりは改善していますが、やはり他学部比べて突出しているのが気になります。同様の窓口である看護学科・臨床心理学科は他学部と類似であるため、原因の解析が必要かと思われます。



(8) バリアフリー支援室

問 28 あなたはバリアフリー支援室を知っていますか。

認知度は前回調査時より低下しており、知っている学生は4人にひとりにとどまっています。教育学部においては4割の学生が知っており、専門性の高さがうかがわれはします。ただ、前回調査時に5割を越えていた教育学部においても4割を切っており、認知度が下がっていることから、もっと入学時のオリエンテーションから周知を徹底すべきかと思います。

